

上尾を食べよう

～ 地産地消のすすめ～

そして貴方は何を食べる？



実施会場 聖学院大学チャペル

2009（平成21年）年7月8日実施

後方支援部隊：専門演習（国際政治論）



出演者紹介（左から）

- (行政代表) 埼玉県農林振興センター副部長
農業支援部長 宮澤史明氏
- (行政代表) JAあだち野営農経済課課長
矢部達也氏
- (生産者代表) 農事組合榎本牧場代表理事
榎本求氏
- (生産者代表) 農業生産法人(株)ナガホリ代表
御多忙により、御夫人永堀喜久江氏に御出席頂きました。
- (消費者代表) 戸崎地区会計 紫竹明夫氏

説明の一部を紹介



榎本牧場代表理事 榎本氏による榎本牧場の紹介

榎本牧場は乳牛 90 頭を飼育している牧場であり、ロバ、犬、猫、ミニ豚、ウサギ等の複数の動物達によって運営されている酪農系の牧場です。今回の政治経済学部画の「上尾を食べよう」に参加するにあたり、御自身の経営する「榎本牧場の将来像と地域住民との融和」について語っていただきました。

榎本牧場は地元上尾市の丸山公園近くに位置している為に聖学院からも近く、予約を行えば誰でも搾乳体験を初めとした牧場生活体験ができます。ただ、最近になって導入した「自動搾乳機」に見いってしまう人達が沢山いるのには少し驚かれていたそうです。

(大人の方が搾乳機に見いってしまう www)

御本人曰く、「より多くの人に、牧場生活が如何なるものであるかを知ってほしい」



農業生産法人（株）永堀代表代行 永堀喜久江氏による

休耕地活用の活動紹介

永堀農業生産法人が行っている「休耕地活用」とは、上尾市内に存在する実質的な「耕作放棄地」を買取り、農地として再生させようという活動を指す言葉です。

現在日本には、後継者不足や農村部の高齢化に伴って半ば放置状態となっている「休耕地」が全国総計で地元埼玉県とほぼ同面積存在するという話です。

この「休耕地」を再生させる事で、日本の食料自給率を向上させる事ができるのではないかという議論は、NHK ニュースでも紹介されています。



今回、「上尾を食べよう」に出席していただくにあたり、ナガホリ農場で採れた地元産の新鮮な小松菜が、相場の 4 分の 1 の価格でご提供いただけ、大盛況の内に全品完売となりました。

「地産地消」の実践を為されている永堀夫妻の農業に対する確固たる信念を持っている事が伺えました。

後方支援部隊ゼミ生の紹介

1 「食・農フォーラム」 担当ゼミ生



(右から)

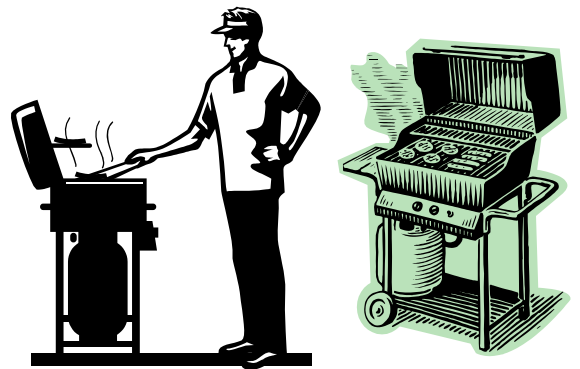


阿部拓哉
米内優人
佐伯瑛一
鈴木達也

2 「バーベキュー試食会」 担当ゼミ生



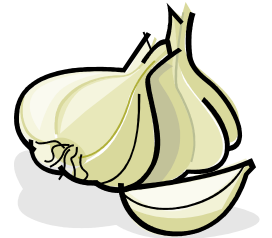
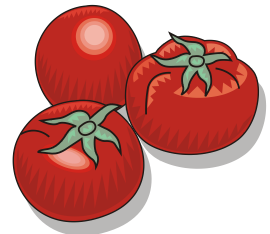
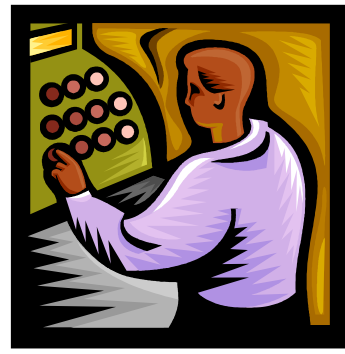
(右から)



シャ・イエメイ
シュウ・ブンリン

柴田ゼミ(金融論)のゼミ生の方々にも後方支援部隊として参加致していただけた為、双方での共同作業は無事終了しました。

3 「野菜とジェラート販売」 担当ゼミ生



(右側から) 飯村千加雄
後藤光博

NPO 法人コミュニティ支援センターと地域で農業を営んでいる地元農家の方々からもジャガイモや手作りジャムといった地産品の提供をしてくれた為、より充実した品揃えでお客様に喜んで頂けました。

4 記録(カメラ)担当



寺本正典

以上の担当ゼミ生の後方支援によって政経学部の企画は好評のうちに終了しました。

全員が役目を全うした事で、達成感を得ました。

秋吉・柴田・平先生、修学支援課職員他後方支援を提供して下さいました方々、参加して下さいました皆様に心からの感謝を申し上げます ありがとう御座いました。